

【事後レポート】

町制施行70周年記念『棚田未来プロジェクト』

開催日時

令和6年10月5日（土） 11:00～17:30

目的

大蕨の棚田で「ドローン」を使ったイベントを開催し、県内外に大蕨の棚田を知ってもらう

イベント内容

- ・ドローン操作体験
- ・稲返し体験
- ・棚田米のおむすび、舞米豚入り豚汁の振る舞い
- ・山辺高校生らによるドローン映像作品上映

令和6年10月5日（土）に大蕨の棚田にて、『棚田の未来プロジェクト』を開催しました。

当日は天候にも恵まれ、普段棚田には訪れない一般の方にもご参加いただき、盛況に終わることができました。

・ドローン操作体験

委託業者である㈱ドローンエンタテインメントより、ドローンの操作方法を教わり、大蕨の棚田で2機のドローン飛行が行われました。



- ・稲返し体験

中地区有志の会、グループ農夫の会協力のもと、杭掛けになっている稲わらをひっくり返す伝統的な手法の「稲返し」作業を一般参加者の方から体験していただきました。



- ・棚田米のおむすび、舞米豚入り豚汁の振る舞い

大蔵の棚田米で作った「おむすび」と町特産の舞米豚を使った豚汁を山辺高校食物科の生徒らに作っていただき、参加者のみだけでなく、棚田を見学に来られた方も含めて振る舞いが行われた。



・山辺高校生らによる棚田をドローンで撮影した作品上映会

山辺高校生4チーム、役場若手職員1チームによる棚田を題材にしたドローン映像作品の発表会が行われ、様々な切り口からの大蔵の棚田が表現された。それぞれの作品について、お互いに評価しあいながら、大盛況で幕を閉じました。



・山辺高校食物科による高校生レストラン（タイアップ事業）

タイアップ事業として、棚田を見渡せる場所に臨時のレストラン会場を設け、山辺高校食物科の生徒が作った新米入りの弁当が振舞われた。



参加した各団体代表の方からのコメント

中地区有志の会

Q プロジェクト開始前の感想、課題、不安は？

A 参加者が集まるか不安だった。

Q プロジェクトを終えての感想は？

A 当日のタイムスケジュールが不明だったことや地区民への周知が足りなかった。農夫の会からの参加者が多く、広がりを感じられなかった。

Q 今後に向けた改善点や要望等は？

A ドローンと棚田の結びつきがいまいちわかりにくかった。

グループ農夫の会

Q プロジェクト開始前の感想、課題、不安は？

- A ①現在取り組んでいる棚田再生事業と山辺高校とドローンの組み合わせでどんな化学反応を起こすか期待があった。
- ②地域全体を巻き込んだ取組みになるのか不安、ドローンを使うコンセプトの展望が見えなかった。
- ③短時間でドローンの編集を終えられるのか不安だった。
- ④これまでにない新しい視点の取組みが生まれるかもしれないという期待があった。

Q プロジェクトを終えての感想は？

- A ①「継続」は次につながる「進化」となることから、3～5年はやり続けることが重要。
- ②棚田で高校生がドローン撮影やレストランをしている姿に感動した。上映会も想像以上の出来で、地元の人にもっと見てほしかった。
- ③上映作品のどれもが個性ある視点で面白かった。完成度が高く素晴らしかった。
- ④我々が気付かない所を見せてもらえて、感心した。
- ⑤ドローンのプロの技術が素晴らしく、飛行方法や編集技術の一端を高校生や役場職員に伝えていただいたことで貴重な財産が得られたのではないかな。上映作品やプレゼンも素晴らしく、充実感を得たのではないかな。

Q 今後に向けた改善点や要望等は？

- A ①町の魅力発信事業として観光協会との連携と報道機関受けする仕掛けが必要。
- ②プロジェクトの中身が興味深かっただけに、町外からの参加者がほしかった。山辺高校の生徒が真面目に取り組んでくれたおかげで大成功だった。高校生レストランは継続してほしい。
- ③上映会の参加者が少なかったのが残念。今回の作品を再度上映する機会を作ってほしい。別のテーマでの映像作品の企画もしてほしい。
- ④地元の方にもっと見てもらえる工夫が必要。
- ⑤町の若手職員のアイデアで、今後も同様の取組みが企画されることを楽しみにしている。

山形県立山辺高等学校

Q プロジェクト開始前の感想、課題、不安は？

A 生徒の意識が甘く、不安がいっぱいだった。他の行事とも重なり、目的にあったものができるか課題はたくさんあった。

Q プロジェクトを終えての感想は？

A 何度も現地に車で連れていってくれたり、ドローンの操作を丁寧に教えてもらい、ありがたかった。当日の上映は完成度が高く、生徒のすごさを感じた。棚田に高校

生がいることが初々しく、中山間地を支える人材になればいいなという思いになり、とても良かった。

Q 今後に向けた改善点や要望等は？

A せっかくの映像作品なので、PR 動画を完成させて、町の PR や何かしらの大会に申し込んで、付加価値をつけられたらいいのではないかな。生徒の感覚的なものは素晴らしいので、それを活かしてほしい。

まとめ

中地区有志の会やグループ農夫の会の方々がこれまで取り組んできた棚田再生事業の思いを継承しつつ、このたびは町が実施主体となり、国の補助事業を活用して、棚田保全に資する事業に取り組みました。

当該事業には中地区有志の会、グループ農夫の会、山辺高等学校により全面協力をいただき、イベントの企画から当日の運営までを株式会社ドローンエンタテインメントから請け負っていただきました。

それぞれの強みを活かした取り組みが棚田という地で発揮できたものと感じています。

ただし、関係団体からのコメントにもあったように、様々課題はあり、反省・見直すべき点は多々ありましたので、プレ事業としては概ね出来たものの、次年度以降はその課題、見直し点を踏まえ、よりブラッシュアップした事業として取り組んでいけたらと思います。

山 辺 町 70 周年
町 制 施 行

The 70th anniversary

